

運輸部

平成16年度
年末年始の輸送等に
関する安全総点検の実施

大量の輸送需要が発生し、輸送機関等に人流・物流が集中する年末年始は、ひとたび事故等が発生した場合には大きな被害となることが予想されます。

このため、陸・海にわたる輸送機関等について、自主点検等を通じた安全性の向上を図るとともに、輸送安全等に対する意識の高揚を図ることを目的として、「年末年始の輸送等に関する安全総点検」を平成16年12月10日～平成17年1月10日まで実施しました。

沖縄総合事務局運輸部では、総点検が所期の目的を達成することができるよう、飲酒運転、居眠り運転等を防止するための体制整備状況、自然災害、事故等発生時に乗客等の安全を確保するための体制整備状況、テロ防止のための警戒体制及び発生時の通報・連絡・指示体制の整備状況を重点点検事項としました。

具体的には、モノレール、バス、タクシー及びトラック事業者等陸上交通関係、旅客定期航路事業者等船舶関係、政府登録ホテル等宿泊施設関係及び第一種旅行業者に対して適切な点検を行うよう指導するほか、期間内に職員による立入検査を行い、点検において発見された不備事項については、早急な改善を指示・指導しました。



開発建設部

やんばる河川・海岸の
自然再生を推進

開発建設部河川課では、11月27日に第3回目の「やんばる河川・海岸自然再生協議会」を開催しました。

本協議会は、平成16年6月、開発建設部河川課、沖縄県河川課、リュウキュウアコを蘇生させる会の3者が呼びかけ人となって設立したもので、市民、NPO、専門家など一般公募委員48名の他、関係する地方公共団体、国の機関19名の合計67人の委員で構成されています。自然再生推進法に基づく全国で6番目の協議会であり、沖縄県では初めての設立となります。

今後、自然再生全体構想策定及び自然再生事業実施計画策定の協議など、やんばるの河川・海岸の自然再生に係る様々な協議及び実践活動を行なっていくことになります。

なお、本協議会は、やんばるの河川・海岸の自然再生について、民と官が一緒に計画を策定するものであり、KJ法を活用するなど合意形成に向けた新たな試みを行なっているところです。



やんばる河川・海岸自然再生協議会HP
<http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/yanbarusizen/sizennsaiseitop/sizensaiseitop.htm>

開発建設部

第13回「沖縄の道路」写真
コンテスト表彰式を開催

「沖縄の道路」写真コンテストは、道路の果たすいろいろな役割を県民の皆様に理解して頂き、併せて道路愛護思想の普及を図ることを目的に、開発建設部が主催し、平成4年度に第1回コンテストを実施し、今回で第13回を数え、応募者も第1回は30名74作品でしたが、今回は166名404作品の応募がありました。

去る10月22日に沖縄県写真協会会長外7名の審査員による審査会が行われ、厳正な審査の結果、最優秀・優秀・佳作などの入賞作品25点を選出しました。そのうち佳作以上の12作品は2005年道路カレンダーの各月に掲載されています。

表彰式は、当局渡口潔次長をはじめ、佳作以上の入賞者及び審査員など関係者が出席し、12月1日にかりゆしアーバンリゾート那覇において開催され、渡口次長の主催者挨拶の後、入賞者へ表彰状及び記念品が授与され、続いて沖縄県写真協会の安里盛昭会長より作品1点毎に写真の構図や露出など詳細な講評が行われ、入賞者をはじめ参加者全員が熱心に聞き入っていました。

また、表彰式終了後、道の駅許田(12/13～12/17)、県庁1階(12/20～12/24)において入賞作品展示会も開催されました。

経済産業部

「名護市中心市街地活性化
シンポジウム」の開催

経済産業部では、中心市街地活性化についての普及啓発を図るため、平成14年度から県内各地で中心市街地活性化シンポジウムを開催しています。

今年度は、去る11月20日に、名護市の程順則公園予定地において、「海にひらかれたまちづくり」のテーマでシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは基調講演や先進事例紹介、パネルディスカッションを行い、その中で名護市中心市街地の活性化方策について意見が交わされました。

はじめに「地域が賑わうということ」と題して基調講演を行った兵庫県立大学環境人間学部の中沢孝夫教授は、まちづくりについて、やる気のあるものの結集と、まちのスポットをつくっていくことが必要であると強調しました。

また、「街に理念を！」と題して青森市の事例紹介を行った青森新町商店振興組合常務理事の加藤博氏は、明確なビジョンと行政や各種団体との連携、小さな成功の積み重ねが重要であると訴えました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、「名護湾の利活用と地域資源を活かしたまちなか観光の展開」と題して、地元代表の東江司氏や比嘉ゑみ子氏ら6人のパネリストが地元に魅力あるまちづくりと観光客の呼びおこし等について活発な議論を展開しました。

当日は、本シンポジウムにあわせて名護市による共催事業が開催されたこともあり、予想を超える聴衆が会場周辺を埋め尽くし、名護市のまちづくりに対する関心の高さが窺えるシンポジウムとなりました。

中心市街地の活性化は、行政と地元市民が一体となったまちづくりが重要であり、今後の名護市と市民組織「名護ワイワイ百年夢会議」等によるまちづくりが期待されています。



農林水産部

ウッディグランドフェア
開催される

11月11日(木)～14日(日)「第9回沖縄ウッディグランドフェア」が沖縄市のプラザハウスで開催されました。



沖縄県内には地域材を利用して木工品を製作する工房等が多く、木工技術の向上や木工品の需要拡大を図ることは、沖縄の林業・木材産業を振興する上でも大きな意義があります。

このフェアは、作品コンペの開催により製作技術の向上を図るとともに、広く県産木工品の良さをアピールして県民の木製品への愛着と理解を深め、県内木製品産業の振興を図るため、沖縄総合事務局等が後援して開催しています。



初日のオープニングセレモニーでは、当局秋本農林水産部長が「湿润な我が国の気候に適した素材として昔から私たちの生活に関わってきた木材の利用の推進を図り、安らぎのある生活空間を創造するとともに、木材利用の推進を通じた森林の整備を進め、地球温暖化防止にも取り組んでいく必要があり、関係者の一層のご活躍に期待したい。」と祝辞を述べました。

財務部

第20回財務行政
モニター会議を開催

財務部では、去る12月3日、那覇市内において「第20回財務行政モニター会議」を開催しました。

この会議は、財務省及び金融庁の施策を中心としたテーマについて、財務行政モニターから意見や提言等をいただくことを主な目的として開催しており、県内各界各層の5名の方々に対して委嘱しています。

会議においては、冒頭、坂本財務部長の挨拶の後、当局から今回のテーマである「財政と税制の現状と課題」の概要を説明し、続いてモニターの方々よりそれぞれの立場から、「財政赤字削減の方策」、「社会保障等の行政サービスの水準と負担のあり方」、「個人所得税の基幹税としての機能回復」、「所得税のあり方」などに関する貴重な意見・提言が出されました。

モニターの方々が日頃感じている問題点など、数多くの意見等をいただき、有意義な会議となりました。

モニターからいただいた意見等については、財務省に報告し、今後の施策等に活用されることになります。

